

七十年前の『原爆の図』佐世保展

八十六人の感想文を発見・再録

——郷土文化誌『虹』の第七号（編集人・井上光晴氏）が抜粋収録

中西徹

「再び原爆を許すな！戦争と再軍備反対！平和を！」の声を、七十年後の佐世保市民や日本国民は、どのように聞くのか？

七十年前に開催された『原爆の図』佐世保展を鑑賞した八十六人の感想文が、佐世保市で創刊されたばかりの郷土誌『虹』に収録されていた。

頁を開くと、『原爆の図』を目の当たりにして感受した八十六人の鮮烈な印象や、触発されて発した言葉と反戦平和への思いが七十年ぶりに、怒涛のように迫ってきたのだった。

『原爆の図』佐世保展は一九五二年(昭和27)十一月十六日から

十九日まで、佐世保市公会堂で開催され、参観者に対し【原爆図展のアンケート】が実施された。

アンケートに答えて、本名か匿名かで感想文を書き残したのは、十一、二歳の小学生から中学・高校・大学生、主婦、事務員、炭鉱労働者、教員、画学生、商人、公務員、鉄道員、記者、画家、海上保安官、五十三歳の婦人までの、八十六人。

主催者発表の入場者総数約一万五千人のうち、アンケート回答総数は不明だが、八十六人のアンケート(感想文)が抜粋されて、佐世保文化研究会が発行する郷土文化誌『虹』第七号(一九五三年二月二十日発行)に本文総三十六頁のうち八頁を割いて掲載された。

『虹』のバックナンバーは、佐世保市立図書館郷土資料室に収蔵されていた（創刊号と第四号が欠）。

本稿は、アンケート（感想文）を収録した『虹』と「佐世保展」の内容、長崎県内の巡回展にふれたあと、『原爆の図』を鑑賞した感想文に七十年ぶりの光を当て、再録する。

『虹』について



『虹』第7号の表紙。

「原爆と平和特集」を掲げ、『原爆の図』を鑑賞した86人の感想文を収録している。

郷土文化誌『虹』は、河口憲三、井上光晴、矢動丸廣の各氏等が「日本の西端から反戦平和を訴え続けよう」と呼びかけ、佐世保文化研究会を組織し、一九五二年に創刊した。創刊号が無いので発行月日は不明だが、当初隔月刊の発行形態と第二号（同年七月発行）から推測すると、創刊は五月二十日頃か。

発行人は元・同盟通信長崎支局の記者で、民報社を経営する河口憲三氏で、同氏は第七号で「長崎原爆地にペンを握りて」と

副題し、原爆受難の初日から四日間の状況と人々の死に様を書いたノンフィクション「蛆」を発表している（一九五三年一月二十日脱稿と付記）。

編集人は一九五〇年に『新日本文学』で「書かれざる一章」を発表した井上光晴氏で、『日本の原爆文学／第五集／井上光晴』（一九八三年刊、ほるぷ出版発行）によると、この後に「手の家」（一九六〇年六月号『文学界』）、「地の群れ」（一九六三年七月号『文芸』）、「明日」（一九八二年一月『使者』）、「というように原爆文学を生み続けたが、その創作の契機が『原爆の図』佐世保展にあつたのだろうか」と、筆者は勝手な思いを巡らせてしまう。

『虹』第二号（一九五二年七月二十五日発行）の編集後記で、（Ⅰ）氏が書いている。

どのような理由から、どこにおとされようとも、私達は三発目の原子爆弾を決して許してはなりません。この雑誌の生まれた根本の出発点はそれだけです。この雑誌は美しいことだけを愛します。人間が本当に人間らしく生きるために、どんな苦しいことがあつたとしても、その苦しさの中から真実のよるこびをじっくりみつけだします（Ⅰ）

アルファベットのアイ（Ⅰ）氏は、井上光晴氏に間違いない。

矢動丸廣氏は佐世保女子高の教師。第七号では、「原爆と肉体」の表題で大田洋子の「屍の街」「人間檻樓」にふれ、「人間をポロポロにした街から、原爆以上の強い意志、平和を希わねばならぬ」。大田洋子の『人間檻樓』は、そう希う一人の友を、次から次に作って行くであろう」と結んでいる。そして、矢動丸氏は一五年後の一九六八年一月、原子力空母エンタープライズの佐世保港

寄港反対で「佐世保十九日市民の会」を結成し、毎月十九日に行われる平和を訴える市民デモ行進の先頭に立った（付記 二〇二二年十二月十九日のデモで、通算六五九回）。

『原爆の図』佐世保展の内容

『虹』第六号（一九五三年一月二十五日発行）の編集後記で、編集人の井上光晴氏は「七号は『原爆と平和』特集、およそ戦争に反対し、原爆の悲惨さに目をおおむものすべての声をもりあげべく鋭意準備中である」と書いて、『原爆と平和』特集を予告し、展覧会から三ヶ月後の第七号（同年二月二十日発行）で、

「原爆と平和」のテーマで特集を編み、『原爆の図』展の参観者八十六人のアンケート（感想文）を抜粋収録したのだった。

編集人の井上光晴氏は、アンケート頁の扉（写真）上段で「再び原爆を、絶対に戦争を許すな」と太字の見出しを立て、横に『原爆の図』第五部《少年少女》の部分トリミング、レイアウトし、下段でアンケートの様式を例示して、見出し下で『原爆の図』佐世保展を以下のように総括した（太字棒線は筆者による）。

主催・参加団体名を列記（省略）したあと、「（四日間の開催で）**参観者約万五千名**の圧倒的な成功をおさめた。『人間はあとかたもなく吹っ飛び、バラバラになり、コークスになった。一瞬にして人間は狂い、若い女もはじらいを失った裸形の行列！丸木、赤松の両画伯は、原爆の悲惨にたいする全身の憤りと平和へのはげしい情熱をこめてこの『原爆の図』の大作をつくりあげたのである。縦一間横四間の十部作はすべての人々の良心をゆさぶり次の

ように訴える。再び原爆を許すな！平和をわれの手に！」という主催者の呼びかけをこけ（筆者注：えの誤植？）てみるものの感動は揺れ、会場には殆んどすすり泣きの絶え間がなかった」と書いている。

佐世保展の来場者は、『虹』が約一万五千人としているが、原爆の図丸木美術館で学芸員を務める岡村幸宣氏著の『『原爆の図』全国巡回』（二〇一五年刊、新宿書房発行、以下『全国巡回』と略）巻末の記録では、『原爆の図』全国巡回を担った野々下氏のメモとして、一万一千人と記録している。『虹』が四千人も多いのは、井上光晴氏はじめ主催者や鑑賞者の感動と衝撃の大きさゆえか？

・新聞報道に関するメモ

佐世保展の新聞報道に関し、岡村氏は『全国巡回』で、『長崎日日新聞』の十一月十九日付を記録しているが、筆者が確認したところ『佐世保時事新聞』の十一月十七日付でも記事掲載があった。『長崎日日新聞』が簡略な内容の字数八十四字と会場内写真であるのに対し、『佐世保時事新聞』は開会前に執り行われた戦没者慰霊祭の写真と記事も併せ、**「第一部「幽霊」、** **第二部「火」、** **第三部「水」、** **七部「夜」の**一部と、統計上からみた広島の家屋、死亡者の被害状況、原子病の症状など生々しい原爆の惨状図を陳列、観客の眼をひきつけている」と詳報している。

ここで、炭鉱地域という佐世保と地勢・文化・経済的な要素が同じで、佐世保に引き続いて開催された大牟田展をめぐり、炭都三池文化研究会会報『カンテラ』第六号（二〇二二年十月発行）に掲載された鶴飼雅則氏の執筆による「松屋で開催された『原爆

の「凶展」を参照する。鶴飼氏は、地元紙『大牟田文化通信』の記事を発掘している。『大牟田文化通信』が十一月一日、十一日、二十一日と三回も開催機運を追いかけて詳報し、大牟田市民を挙げて『原爆の凶』展の開催に取り組む状況を記録していて驚かされる。鶴飼氏の著作から十一月二十一日付の『大牟田文化通信』を引用する。

『原爆凶展』全市的な催しにまで発展／松屋六階にて二十八日より開幕（以上、見出し）／（以下、本文）既報、『原爆の凶』展は、開催実行委員会が中心になって、全市的に異常な高まりをみせているが、いよいよ今月二十八日より十二月一日にかけ松屋デパート六階において開催されることになった。この『原爆の凶』は、広島出身の丸木位里、赤松俊子夫妻が、一生の仕事として精魂をうちこんで描きつつある**十部作**で、そのうち、当地に来るのは第一部「幽霊」、第二部「火」、第三部「水」、**第七部「夜」の一部**、及び原爆被害写真数十点

『佐世保時事新聞』と『大牟田文化通信』の記事を見比べてみると、出展内容はほぼ同じで、『原爆の凶』は十部作、第七部《夜》の一部も出展である。

・「十部作」に関するメモ

『全国巡回』の著者・岡村幸宣氏は、第6章旅する《原爆の凶》の「原爆長崎之凶」202頁で、一九五三年八月日本共産党出版局発行の『新しい世界』の「平和月間によせて」という特集に収録された丸木位里氏の「あと四部を今年中に描き上げて、十部作完成させたいものと考えております。あと七部八部は長

崎に取材します」という記述を引用している。また、岡村氏の著作である『《原爆の凶》のある美術館』（二〇一七年四月刊、発行・岩波書店、以下「美術館」）では、「かねてから『原爆の凶』は十部作で完結と語っていた丸木夫妻」で「第十部《署名》は一九五六年の発表」とある。

『原爆の凶』は、後に五部が追加され、全十五部である。「第一部から第十四部を丸木美術館で展示し、第十五部《長崎》は長崎市原爆資料館が所蔵」（『美術館』）、常設展示している。

・第七部「夜」の一部に関するメモ

『佐世保時事新聞』、『大牟田文化通信』ともに、第七部「夜」の一部が出品されたと書いているが、『美術館』によると、第七部は「竹やぶ」（一九五四年）とある。

岡村氏は『全国巡回』の中で、「夜」は「第一部の後に描かれた「未完作」で、「大画面の構想がまとまらず、『番外』の扱いにとどまってしまったのかもしれない」と書いている。

長崎県内の巡回展について

岡村氏が『全国巡回』の巻末で記録した巡回記録によると、九州の巡回はヨシダ・ヨシエ氏と野々下徹氏という若者が屏風仕立ての原爆の凶を担いで、一九五二年十月の小倉・若松に始まった。

長崎県は佐世保市が十一月十六日から十九日、翌年一月十五日から十八日まで長崎市、その後、島原市で三日間、江迎町（住友鉱業・潜龍炭鉱）で三日間開催された。そして、佐世保から海を渡り、浜浦島の崎戸町（三菱鉱業・崎戸炭鉱）で一日間開催さ

れ、佐世保に戻り、鳥栖、唐津へと移動している。

巡回展はすべての都市・会場が決まっていたわけではなく、巡回を担った若者二人が企画・開催交渉したり、見学者が積極的に支援し次の開催地に移動することが少なからずあったという。

当時、佐世保市の周囲には中小の炭鉱が点在していた。アンケートにも、炭鉱労働者の参観が少なからずあり、佐世保市北部の潜龍炭鉱や、井上光晴氏の故郷である崎戸炭鉱に巡回したのは、佐世保で井上光晴氏等からの助言や協力(崎戸労組に友人もいた)があったからだろうと推測できる。崎戸炭鉱ではたった一日の開催だったが、観客七千人という野々下氏による記録があり驚く。当時の人口(約二万五千人)から類推すると幼児・高齢者、業務中の者を除けば町民二人に一人は観ているのである。さらに、江迎町・潜龍炭鉱は三日間で一万九千人で、長崎市の四日間で一万七千人に比して、大牟田(三池炭鉱)もそうだが、炭鉱の人々に共通する『原爆の図』への関心の高さは、どこにその理由があったのか。考察するべき課題だが、念頭を離れない思いがある。

『原爆の図』への、炭鉱の人々の高い関心の理由

炭鉱の人々は原爆受難の大作を前に、明治期から国と財閥企業が労働者の命を軽視し生産と収益を優先した結果、坑内外で相次いだおびただしい死傷事故の惨状を重ねていたのではないだろうか。被爆地も坑内も炎熱・水地獄だった。炭鉱労働者も被爆者も、強制連行の朝鮮人・中国人も、国に戦争遂行のため労働を強制され、遺棄死した。強制連行の朝鮮人が端島炭鉱から脱出する船

上から見たのは、兵器廠・長崎の原爆受難(韓国映画「軍艦島」のラストシーン)だった。国は石炭に侵略戦争と敗戦後復興を担わせたあげく、対米隷属で再軍備し、平和憲法と共に唯一の国産エネルギーである石炭・炭鉱も遺棄した。その象徴が一九六八年一月十九日の、アメリカ海軍原子力空母エンタープライズの佐世保寄港で、数年後に国内の炭鉱はすべて息絶えた。

あとがき

丸木位里・俊夫妻の共同制作になる『原爆の図』展が七十年前に、佐世保市、長崎市、島原市、江迎町(潜龍炭鉱)、そして、中西さんの故郷である崎戸町(崎戸炭鉱)で開催されています。ご存知ですか」という文面で、三池炭鉱があった大牟田市出身者で大牟田の近現代の文化について地史をたどるかのようによく研究する京都府木津川市在住の鶴飼雅則氏から便りが届き、併せて『原爆の図』国内巡回展の記録」と、『原爆文学研究』19号(二〇二〇年十二月刊、編集・原爆文学研究会、発行・花書院)に収録されている「一九五〇年代原爆の図展ポスターの発見」(以下、「原爆の図展ポスターの発見」と略)他のコピーを送っていたいただきました。『原爆の図』は知っていて当然ですが、佐世保や崎戸での展覧会は無知でした。早速、前掲の『原爆の図』全国巡回、『原爆の図』のある美術館、『原爆文学研究』19号等の岡村氏の著作に目を通した次第でした。

ところが、『全国巡回』や『原爆の図展ポスターの発見』では、佐世保市と長崎市の『原爆の図』展のことは『長崎日日新聞』に

記事があることや佐世保展のポスターが発見されたとかの記録はあるのですが、島原市、江迎町（潜龍炭鉱）、崎戸町（崎戸炭鉱）に関しては新聞報道も、開催日・場所など明確な記録がありません。ましてや、見学者の声や具体的な感想の記録は全くありません。

筆者の故郷でもある崎戸の年配の知人に尋ねても「記憶にない、知らない」という返事ばかり。長崎県巡回の当時の記録は無いのか？何か手掛かりはないか？ やつと思いついたのが佐世保で発行されていた雑誌、郷土誌の『虹』でした。以前、井上光晴さんや矢動丸廣さんの佐世保における活動を調べている時に知った『虹』の発行でした。『虹』の発行は、『原爆の図』佐世保展の時期に重なるのではないかと、崎戸展の事も書いていたのではないかと、ふとした思いつきから遭遇できた『虹』第七号に収録されていた八十六人のアンケート（感想文）でした。

この感想文が佐世保、崎戸、長崎をはじめ長崎県民の多くの人々の目に触れ、記憶の彼方に隠れている『原爆の図』展のあれこれを呼び起こし、各地で盛り上がった『原爆の図』展の記録や資料が発掘され、巡回展の輪郭も明瞭になることを願っています。

今だからこそ読んで欲しい『原爆の図』感想文です。

*

一九五〇年八月に公布施行された「旧軍港市転換法」すなわち、「旧軍港市（佐世保市、横須賀市、呉市、舞鶴市）を平和産業港湾都市に転換することにより、平和日本実現の思想達成に寄与することを目的とする」法律は廃止もされず、現在も生きています。

にもかかわらず、「旧軍港都市」は政府によって一段と強化された日米軍事同盟を背景に、市をあげて「軍港」都市化の様相を色濃くしています。水陸機動団という戦闘部隊が配備され、平和に逆行する現実が日常化しています。さらには攻撃能力兵器や小型核兵器の装備を合法とする政治勢力すら存在します。

崎戸炭鉱があつた蛸浦島の崎戸町（現・西海市）では昨年、全島が水陸機動団の訓練・演習場と化す計画すらありました。故郷が戦場化する状況が目前にきているような気がしてなりません。

この国のまっとうな市民が、自身の親・子・孫の問題として『原爆の図』や原爆文学に描き残された無辜の人々の無惨な死に関心を向け、戦争や核兵器による受難を拒否する意志を明確にし、そして、反（核兵器・原発）、戦争反対、平和を守る声を高め、平和への道をこぞって歩んで行くことを願っています。

感想などお寄せください。『虹』の創刊号、第四号をお持ちの方、ご一報をいただければ幸いです。よろしくお願いします。

（二〇二二年十二月記）

中西 徹のメールアドレス tohnu@able.ocn.ne.jp

（注）感想文の再録（全）は、次頁から。

● 佐世保展アンケート【感想文】再録（全） ●

『原爆の凶』佐世保展の感想文の再録は、中見出し、原文通りを原則としたが、実名はイニシャルに変え、常用漢字表に基づく表記に改め、句読点が省略されているので適宜に句読点を加えた。旧仮名、旧漢字は改めた。



アンケート収録頁の中扉

〈わたしは死んでもいやです〉

*M・N 十三歳

げんばくでしんだん人のことをおもうとたまらなくなりました。

*K・M 十二歳

かわいそなと思いました。もうせんそうはしないほうがよいと思いました。僕達の手でせんそうをさせないようにしようと思ひました。

*T・M 十三歳

今からせんそうはしない。ぜつたいにしない。

*M・T 十四歳

せんそうはいやです。どうしてこんなせんそうをしたのでしょうか。広島の人を見るとかわいそうでたまりません。

*S・H 十三歳

世界の国から原爆をとりきるか平和のためにつかつてもらいたい。

*K・T 十二歳

ぼくたちの手でせんそうをしないようにする。

*M・T 十三歳

なぜ日本に原ばくをおとしたかをおもうとクヤシくてたまらない。日本もなせソウをしたかと思うとかなしい。

*H 十四歳

原ばくが落ちた上にまた水ばくが出来ようとは！ ぎせい者にすまない。

*K・Y 十二歳

戦争はいやだ／僕たちはぜつたいに／兵隊にいかない

*U・M 十三歳

このむごたらしい地ごくの様なものにした原子爆だんを心からうらむとともに世界に平和をうるよう心からねがう。

*Y・R 十三歳

この原爆の図展をアメリカの人々に見せてやりたいと思う。アメリカがにくらしくてたまらない。なぜ世界中が手をにぎりあつてせんそうなどしないならよかったのに。人々をこんな目にあわせるとはあまりにもひどい。日本がいくらにくらしくて、原子力を世界のため、平和のためにつかつてもらい良かった。

*N・H

原爆の事はいろいろきいたり見たりしていましたが、こんなにひどいとは知りませんでした。これを見て本当に心から恐ろしくあまり悲しみに驚きました。人の命の尊い事がよく分かりました。日本人が心から平和をねがい、二度と戦争のおこらない事に努めて行くのが残された人我々の、亡き尊いぎせいとなられた人々に対する務めだと思えます。原爆で亡くなられた人々の御めい福を心からお祈り致します。この展覧会は、日本人一人残らず見て頂きたいと思えます。世界中の人に是非見て頂きたいものです。

*T・M 十四歳

トルーマン大とう領の言葉には死者を少なくするために原爆を落とすと言いが、私には、少ないと言うよりも日本国民の正しい人を二十四万人も殺したと思うと、私はほんとうにむかつかます。とうとい宝をこの世からうばつていつてしまつて、こんなことを思うと町を歩いてる外人をたたきたい。こんな事をだれでも思つてメーデを起すのさうらう。もう仕方ないが。

*M・M 十三歳

あのおそろしい戦争は二度とないように。私は映画も見た。今

日も日本の一番ひきさんないやな事を見た。私は、ああゆうことのないように大人の人をはじめ私達も努力したいと思えます。

*H・K 十四歳

たくさんの人々を殺した原子力の力とゆうものは大変おそろしいものです。この世の中で戦争ほどみにくいものはありません。それを大人の人はどうしてしたがるのでしょうか。私はくやしくてたまりません。世界の国が戦争をすてて手をつなぎあつていきたいとおもいます。せつかく発明した偉大な力のある原子力をどうして戦争に使用したのでしょうか。原子力は別に世界の進歩のため工業用としてつかうことはできないのでしょうか。私は原ばくの展覧会をみて、つくづくこわく、おそろしくなりました。たくさんのお友達をなくした私達は世界平和のために平和を祈つてあげたいと思えます。

*（一少女） 十三歳

こんなにおそろしい目にあうくらいなら、又お父さんお母さん姉兄を失うくらいなら死んだ方がましです。絶対に戦争だけはやめてください。可愛そうな孤児を見かけるたびに思ひだします。再軍備なんか取りやめてください。

*（一少年）

こんど水素ばくだんが成功したと新聞に出ていたが、ソ連のお友達やアメリカのお友達があんなにならないように戦争はやめてもらいたい。戦争はいやだ。

へびのようにやけどが多く、かわいそう

*N・T 十一歳

ひじょうにやけどが多く、かわいそう。

*N・M 十二歳

同じ人類をあんざんこなことにしてよいものか。

*T・R 十四歳

私達は、世界じゅうの人々と手を取り合つてたすけあい、二度と戦争のないようにして平和にくらしたい。

*光海中学一年

せんそうをまだやるのだろうか。せんそうはみんなの不幸です。これからさきの日本は平和な国にしたいと思う。私は考えずにはいられない。広島や長崎の人々はきのどくだと思つて、このあいだのえいがを思い出して夜ねむれなかつた。今みたこの図てんは私達のためになつたと、私は思つた。

*（一少年）

戦争はいやだ。この戦争があつたためぼくのお父さんも死んだ。なぜ戦争というものをしたのだろうか。この原ぼくの絵を見て広島と長崎に二つも落ちて、四十万という人が死んだ。人間でいばんたいせつなのはいのちだ。そのいのちを失つてしまった人が四十万人の人のいのちがなくなつたのだ。戦争はいやだ。平和を願う。

*（一少年）

せんそうは何のためにするのだろうか／人をころすためだろうか／また国をとるためだろうか／なんのつみのない人たちをこんなことにしたのはだれだろうか／げんしばくだんを発見した人

は何のために発見したのだろうか／せんそうはいやだいやだ／平和を平和をもとめていきたい／なんとかわいそうな人たちだろうか／私達が社会人になつたなら明るい平和な国をつくりあげたい

*S・T 中学生徒 十三歳

何万という人命をうばうくらいおそろしい原子ばくだんを発明するくらいの能力があるなら二度ととりかえされない人命といつてもとれる国とどちらが尊いかということなせかながえなかつたか？ 私たちは、私たちのために犠牲となつた人々の尊いたましいのけつしようである。だから、この人々のかわりに又、国のため平和を作つていこう。「原爆の子よ、姿こそ見にくくても心は清く、くちびるに歌をもつて平和を求めて行け」

*T・J 山手小 十一歳

原爆は気持がわるくておそろしい。

*B・S 十一歳

たかいお金をつかつてつくらなくとも平和で暮らしたいと思ひます。

*K・K 十二歳

もうなんともいわれないかんじがする。

*K・I 十四歳

人間をこんなみじめな目にあわせたアメリカ人の事を考えてくやし涙が出た。

*S・K 光海中一年

一気にたくさんの人を苦しめる戦争はこれから先の日本及び世

界にぜつたいにおこらせてはならないと思う。何も罪のない人を殺したり、けが、やけど、原子病にかからせたりするのはいやだ。一つしかない命をむざむざなすがたで殺させたのはいつたれだろう。楽しい夏休みのひとときを戦争のために人間をむちやくちやにした。私達が社会人になったら、りっぱな人となるように私ら学生は勉学に励み、明るい国平和国をつくります。

〈吉田首相にみせたい〉

*T・Y 十四歳

こうゆう凶展を吉田首相にみせてください。

*H・S 十五歳

あの無残な死にかたを二度とくりかえしたくありません。私はあのようなものを見て再軍備をしようとは思いません。この日本を軍事基地にはしたくありません。

*夜高生

原爆とは人間への破壊であり、あまりにもこの世のものと思えぬ。人間性を越えた悪鬼の仕業だ。人間が作った人間が死ぬこれほど恐ろしいものはない。それこそ百万年昔の原始時代への逆行であり、世界平和のために、この様な悲惨なもの失くさなければならぬ。恐ろしいと言うよりは、生命の尊さと言うものが、まるで紙を破って捨てるようだ。あのようなことが再びくりかえされれば、人類の死滅する時がかならず来る。

*市商 T・K

平和！ と声高く叫んでも、一方では保安隊をおき、上陸作戦

をねりつつある国連軍は何を見て何を想ってやっているのでしょうか……。こんなに多くのぎせい者が出ているのにどうしてそれが人々に分らないのでしょうか。国家はどうしているのでしょうか。もつと原爆女性を保護すべきだと思えます。私は戦争は大嫌いです。どうか戦争のない良い社会をきずき上げていく様望みます。これだけじゃないと思えます。もつとぎせい者が山ほどいると思えます。戦争商人と大いに闘うべきと思えます。

*M・M 学生 十九歳

再び戦争が起ころうとしている時に、この原爆展は多いに意義があると思えます。誰が原爆を落したのか。又、再び誰が落そうとしているのか。特に日本人々は良く考えなければいけない。

*市商 S・A

私達は本当に戦争はいやです。あのひさんな戦争を二度とくり返す事のない様に誓います。何のためにあのようなぎせい者を出さねばならなかったのか。現在、保安隊予備隊をせつせと作って居ります。戦争準備を意味するのでしょうか。吉田茂は直ちに意を告げに来い。もう本当にいやです。

*一男子より 光海中三年

私は前日「原爆の子」の映画を見、又今日立派な展らん会を見て、広島長崎でピカドンの為に死んだ人には非常にきのどくに思っているしだいであります。もうすぎぎさつた事はしかたがない。しかし今後ぜつたいに「戦争」を起こさぬ様に、世界のすべての人類は仲良くし手を取り合って行く様、私はねん願する。

又、「原爆の子」「原（爆の凶※筆者注）展」を世界各国に輸出し、二度と再び戦争を起こさぬ様にすると同時に、原爆のおそ

ろしさを味あわせてもらいたい。

*S・H 光海中三年

私は前に映画「原爆の子」を見ました。又その前にも色々話もきいていました。そして、おそろしい事も知っていました。今日僕はこの画を見にまいりました。僕は「原爆」というものがあるに、おそろしいものかという事をしりました。前に知っていたよりも、もっともとおそろしい事を僕は痛切に感じました。ぜつたいに原爆をつかつてはならないと。ノモア・ヒロシマ、ピース・フロム・ナガサキ。私は本当にせんそうはいけないと思います。原爆の子のことはもう一度いいたい。私もそう思う。ゼツタイにセンソウはいやだ。

*一学生 十七歳

この惨状を全世界の人に見せ、二度とこのようなのではないようにして頂きたい。又池田大臣の暴言に対し、国民一致して反対し、特にアメリカ人に対し、猛省をうながしたい。

*一学生 十五歳

私達は、戦争という事についてもっと真剣に考えなくてはいけないと思う。この様な悲しい出来事を私達は単にすんだ事として思い出にとどめてはならないと思う。

*S・H 高校生 十八歳

現在、国連に於いても、いな世界全体を米国のファッショ的なものが牛耳っているから、まずその力から世界を開放しなければならぬ。

*一事務員 十八歳

大分ひどいとは新聞やラジオでできたりよんだりしていたが、

あまりの事にびっくりして、どう書いているか、私には書きつぐせません。

*N・M 十五歳

私は長崎で一人のおばといとをなくし、広島では父が傷を受けて帰り、今は何時もよわよわしくしています。この事がふつと頭にかが上がるのでした。

*M・Y 高校生 十六歳

現在の世の中は即ち、日本再軍備賛成反対と言う様な有様である。この原爆展を見た者は、その様な考えはいやおうなしに吹き消されて行く感じである。

*Y・H 学生 十七歳

可愛想だと言うよりもむしろ戦争を起した人、又原爆を投じた米国をうらみたい気がする。又、戦争は二度としたくないと思う。

*M・Y 学生 十七歳

私は兄を原爆で失いましたので、良く分る様な気が致します。私は、再軍備が行われても徴兵されても、非国民と言われ様が、ぜつたい出兵はしない決心です。絶対戦争反対です。これがの一生の誓いなのです。原爆死亡者のために……。

〈米国人への抗議〉

*S・T 事務員 二十四歳

これを米国の人皆にみせてやりたい。当時、長崎にいた兄がこれから後、病が再発しなければよいがと願うのみです。

*主婦 二十二歳

長崎の原爆で生き残った一人としまして、私はアメリカに対し抗議したい。日本の敗戦が決定的になっていた当時、いくら戦争と云えどもあんなにむごたらしい爆弾をおとさなくてもよかつただろう。

*M・A 二十五歳

アメリカが憎い。

*Y・T 無職 二十八歳

軍人はいやだ（軍備のある国が全部にくい）

*T・O 無職 二十四歳

当時、大村にあった。私はこのえを見て、あのひさんさを再びそれよりも深く感じました。

*H・T 工員 二十七歳

余りにいたましい。皆様よく説明を読んでおられる。私、説明付きの展覧会の説明は読まないのが常であるが、今日だけは読みました。

*M・K 警備員 二十六歳

日本人はもちろん、広く海外にも展示すべきある。

*海上保安官 二十九歳

アメリカの策略、即ち日本人を米帝国主義の前衛とする巧妙なる手段を強く認識し、われら団結して排撃すべきである。

*M・A 鉱員 二十歳

もっと早く開いてもらいたかった。せめて総選挙前までにすれば、戦争を始むる自由党は敗れたであろうに。我々は、原爆の悲劇を知らなかった。

*M・H 教員 二十歳

平和への闘争の展開を活発化する必要がある。

*Y・S 商業 二十二歳

現在、戦争を起こそうとしている国と人間を、生命を賭しても打ち倒さなければならぬ。

*炭鉱労働者 二十三歳

原爆展を観て、今更のごとく戦争の脅威に戦慄した。父や、兄を戦争で失った私としてはいかなる迫害にも屈せず、日本を再び戦火にまきこまないため労働組合の組織を通して平和運動をやつてゆきたいと思う。出来るならば、この原爆の図をアメリカとソ連の人民にも見せるため努力していただきたい。

*Y・K

原爆の図展を見て、一日も早く再軍備して憎い米国にこの仇を取りましょう。

*M・K 公吏 二十四歳

原爆図を見て、私は人間の存在と言う物が恐ろしい程である。原爆の日に、私は長崎にいました。私の友、私の先生、すべての長崎の友達があの時に皆んな散ってしまったわけです。戦争には全然参加しない人々が重い極刑にでもされた様に、なぜ死んだのであろう。戦争はもちろん悪いけれども、アメリカのその原爆が悪いのではなからうか。原爆の威力を示すなら種々な方法があつたはずである。

*鉄道員 二十四歳

戦争を喜び、戦争コースへ連なる日本の再軍備に反対し、平和運動する人たちへ弾圧を加えるような現在の政治家たちを憎み

ます。彼らが戦争はこれをいかに正当づけ、あるいは不可避的なものだと言おうとも、私は断固として戦争を否定する。この恐ろしい人類の敵アメリカやその他の戦争製造者あるいは偽善者どもを憎みます。

*一記者

よくよく見ましたが、母の暗い絶望した眼が暗い地獄にひき込んでゆく様に覚えます。

〈子供を守れ〉

*S・N 教員 二十二歳

人間の叫びは、ただ幸福のみ。私の職業として、子供らに戦争のみじめさを徹底的にわからせたいと思う。教え子を戦場へ送りたくない。

*一少年

一つの原子ばくだんで多くの人々が死に、苦しみあつたあのばくだん。私達は原爆の恐ろしさが良く分らないが、今はじめて原ばくのおそろしさがわかった。私達子供達は、平和平和とさげんでいる。もう二度とあのおそろしさはこないように、私達は手をあわせていろう。

*Y・K 二十五歳

敗戦七年目になって、やっとこの様な事実を国民に、いや全世界にもっともっと生々しく植え付けるのに、まだまだなまぬるいと思えます。

*炭鉱労働者 二十二歳

私はこの原爆展をみて、原爆とそれを落した米国に限りなき憎しみと怒りを覚え、私共青年の手で必ずや原爆と戦争を防止する事を堅く心の奥底に誓いました。私はこの感想文を書く今でも胸の裂ける様な思いで手がふるえます。

*H・M 労働者 二十五歳

原爆展をみて、今更原爆の被害におどろく。アメリカ帝国主義に全世界平和勢力は絶対に原爆を使用させない。あらゆる国のアメリカ占領軍は即時本国に撤退せしめよ。

*Y・K 教員 二十五歳

戦争では、絶対平和は迎えられない。戦勝国であり、世界の平和確立うんうんするアメリカが本当の平和論者であつたかは、心あるものならば、否中学生以上であつたならば、今日展示された原爆図とそれにそえられた最も理解ある説明をされたものを見、読んで熟知させられるはずである。平和を望むものであれば少なくとも原爆のいかなるものであり、それを理解し合つて平和を求めるものは、この平和を求める事において最も大胆であつてほしい。であるならば、我々日本人は世界に対しても原爆反対否戦争反対を積極的に呼びかける国民である事を自覚し、世界において最も適切な有資格者である事をも認識すべきである。

*H・Y 労働者 二十三歳

原爆を落したものと、これからそれを又落そうとし、落すぞとオドしているものに私は心からいきどおり（チキシヨ）を感じました。こんなことが今朝鮮であつているのかと思うと、又これらもあるのかと思うと、だまって居れません。

*一主婦 洋裁 二十歳

原爆の恐ろしさを、私たちが今まで話して聞いたことよりも映画で観たことよりも、もっともっと強く感じました。これだけの感動と共感を呼びおこすことの出来る作品から作者の平和を叫ぶ声が身近に感じられます。

*K・N

まず、この世のものとは思われぬ。どの様な答をしようとも使ったものに対する怒りは消えない。今後使おうとするものがないら、ちよつとでもそのケハイが見えたらケツしてみ逃してはならないと思う。平和は闘い取らねばこず、必ず原爆が防げることも確信してかえることが出来る。

*無名氏

この原爆展の生々しい記録がどれほど尊いものであるか、私はあなたがたのこの仕事にただ言葉もなく頭を下げるだけです。平和ようこの推進力の強力な一環として、この催しの意義をみとめます。

〈通訳つきでみせよ〉

*商人

米国人に、佐世保なら米海軍の軍人に、通訳つきで見せよ。

*無名氏

日本国民に見せることも必要なれど、アメリカ、ソビエト両国のトルーマン、スターリンに見せてもらい、その感想意見を求めたい。

*M・I 三十二歳

原爆の惨ギヤク性、いやそれよりもこれを使って戦争をしたがる奴のザンギヤクさにたいする激しい憤り。

*無名氏

人類はぐれつだろうか／人々はバカの集団だろうか／人は救われないものだろうか／暗黒にふりしきる罪の土砂よ／消えるものは、消えれば良い／かくして二十世紀は終えん／地球は冷えてゆく／にくしみともだえの炎のに

*T・K 食肉商 四十一歳

哀れです。本当に合掌、心を込めて（明治天皇の御教えも馬耳東風の軍ばつの残した悲しむべき置土産？）全世界の人々に無料で拝観させたい（まずしい人のため）ぜひぜひ。

*M・S 公吏 三十二歳

あまりにもむざんな死に、この発明者又これを使用した米軍をうらまざるを得ない。

*母

もう二度と会うまい、この悲げき。

*無名氏 商 三十七歳

原爆についてはもうずい分多くの新聞雑誌上で見ました。しかし、こう総体的にその多くの資料を一堂に集め、多くの人に同時に供覧することは一層深く原爆の恐ろしさを痛感させ、国民の戦争反対の決意を促すものであると思いました。

*主婦

何はともあれ再軍備の反対です。軍備をする人を殺してやりた。我が子はぜったい兵隊にやりません。

*女絵画生 三十歳

原爆の日の生々しい血や悲しさや、死、命とか、そんな私たちが今まで経験もしなかった心境、そのような生々しいデッサンがたくさん見ることが出来て、その意外の惨をほうふつとすることが出来た又私たち。駐留軍関係の仕事をしている者にとつて、その彼等の紳士的な態度や優雅さにひよつとしたら多分はだまされているのではないかと、考え直させるような強くもつと根本的に考えなおさなければならぬと思つた。平和や原爆や、死や民主的なもの考え方、ソ連についてなど。

*無名氏 電気 三十一歳

一度は是非見ておく事です。人間はなんのために生まれて来たか？ こんなみじめな姿になつて、死なんがためではないはずで。全身にぞつとする程こたえました。

*M・T 画家 四十四歳

「夜」を最もよいと思う。「火」の火焰にややリアルでない描法をみとむ。丸木、赤松氏の努力に敬意を表し、より多くの場所展覧がされることを希う。

*K・S 事務員 四十歳

戦争の悲惨を今更の如く恐怖し、今後絶対に世界中に戦争を起こしてはならないと思う。

*Y・J 会社員 四十歳

かつて大東亜戦において軍人として闘つて来た者として、再軍備の危険なる事を痛感する。

*T・T 五十三歳

戦争は絶対に世界から追い出さねばならぬ。天が下に他人なし。

神の心になつて全人類の幸福を祈る。

(アンケート 抜粋了)

記

佐世保市立図書館郷土資料室のご協力を得て、『虹』第二号から第一〇号まで(創刊号と第四号が蔵書なし)と「長崎日日新聞」「佐世保時事新聞」「佐世保文学」等を閲覧した。記して感謝を申し上げます。